

公開シンポジウム 「交錯する宗教と民族—交流と衝突の比較史—」

世界に多数存在する宗教と民族は、時に激しい対立や交流、融合を繰り返しながら、現代までの歴史を紡いできました。その交流と衝突は、いかに顕在化しているのでしょうか。このシンポジウムでは、アジアとヨーロッパにおける人の移動と民族の越境・交流の実態、ヨーロッパ社会における政治と宗教の関係、個々の人間の想いとその相克、さらにそこから相対化される「国家」意識の具体的深層に迫ります。また、歴史学・文学・文化人類学・言語学・地域学・宗教学の分野から多角的に比較検証し、宗教・民族・国家の共存のあり方を問い直します。論集『交錯する宗教と民族—交流と衝突の比較史—』（アジア遊学 257、勉誠出版、2021年7月）にまとめた名古屋学院大学研究助成4年間の成果を、わかりやすくご紹介します。

[配信方法] オンライン YouTube LIVE 配信 後日大学公式 YouTube にオンデマンド配信

[主催] 名古屋学院大学 国際文化学部

「宗教と民族の対立・交流の現代歴史学的研究」会（2017～20年度、代表：鹿毛敏夫）

「ローカリティ形成における宗教の関与についての学際的比較研究」会（2021～25年度、代表：宮坂清）

【第1回】：10月31日（日）「宗教の断絶と叡智」（論集第2部を中心に）



13:00～13:20	開会挨拶・趣旨説明
13:20～13:50	ラダックのアイデンティティ運動—もうひとつの「カシミール問題」— 【宮坂清（文化人類学/国際文化学部准教授）】
13:50～14:20	インドネシア・アチェ州のイスラーム刑法と人権 【佐伯奈津子（地域研究/国際文化学部准教授）】
14:20～14:50	宗教と平和—宗教多元社会における戦争— 【黒柳志仁（宗教学/国際文化学部准教授）】
14:50～15:00	休憩
15:00～16:00	討論 コメンテーター：今村薫（現代社会学部教授）・佐竹眞明（国際文化学部教授）

【第2回】：12月5日（日）「流動する民族社会と「国家」・個の相克」

（論集第1・3部を中心に）



13:00～13:10	趣旨説明
13:10～13:35	ドイツ語圏越境作家における言語、民族、文化をめぐる 【土屋勝彦（越境文学/国際文化学部教授）】
13:35～14:00	近代名古屋にとっての中東—実業界との関係を中心に— 【吉田達矢（歴史学/国際文化学部准教授）】
14:00～14:25	戦国大名の「国」意識と「地域国家」外交権 【鹿毛敏夫（歴史学/国際文化学部教授）】
14:25～14:50	保育園で働く看護師の語りから考える多文化共生 【梶原彩子（現代日本語学/国際文化学部講師）】
14:50～15:00	休憩
15:00～16:00	討論 コメンテーター：増田あゆみ（国際文化学部教授）・神山美奈子（商学部准教授）

第1回 宗教の断絶と叡智（論集第2部を中心に）

ラダックのアイデンティティ運動—もうひとつの「カシミール問題」—

インドのラダックで展開されてきたアイデンティティ運動を、カシミールやインドとの関係において捉え、もうひとつの「カシミール問題」として提示する。インドはセキュラリズムを国是とするが、仏教、イスラーム、ヒンドゥー教といった宗教コミュニティの対立がこれらの問題に深く関わり、その解決を困難にしている。



宮坂 清
国際文化学部准教授

インドネシア・アチェ州のイスラーム刑法と人権

30年におよぶ紛争が終結したインドネシア・アチェでは、イスラームの名のもとに、または伝統・文化を理由に、普遍的な人権原則に反するような権利の制限や、少数者への不寛容・排外主義などが高まっている。イスラーム刑法に関する条例をめぐる議論を整理し、新たなかたちの暴力が発生するにいたった背景、政治的文脈を考察する。



佐伯奈津子
国際文化学部准教授

宗教と平和—宗教多元社会における戦争—

国際社会におけるテロ、戦争、紛争などの問題を、比較宗教の視点からクローズアップする。宗教がもつ信仰、教義を通して、いかにグローバル化社会の中で共生・共存していくのかを考察する。異なる宗教の特徴や相違について、歴史・思想的な知識や認識を得ることを目的とする。



黒柳志仁
国際文化学部准教授

第2回 流動する民族社会と「国家」・個の相克（論集第1・3部を中心に）

ドイツ語圏越境作家における言語、民族、文化をめぐる

ドイツ語圏の越境文学においては、異なる宗教・民族・文化間の衝突と相互影響の諸相が描かれるとともに、他者の意識から生まれる言語表現の革新性や規範的言語からの逸脱、さらには混成的言語表出に至る場合もあり、それが「国民文学」の多様性と豊饒性、そして世界文学への参与を促進する可能性をもたらしている。



土屋勝彦
国際文化学部教授

近代名古屋にとっての中東—実業界との関係を中心に—

近年、名古屋にとっての中東は重要な地域のひとつといえる。それでは、名古屋と中東地域との関係はいつから始まり、どのような経過を辿ってきたのだろうか。戦前期における、両者の貿易、中東地域に対する名古屋の実業界の動向を検討するとともに、それに関連した東京・大阪の諸団体などの位置づけについても考察する。



吉田達矢
国際文化学部准教授

戦国大名の「国」意識と「地域国家」外交権

有史以来、中華世界の周辺国の一つとして中国皇帝から「日本国王」に冊封されることで維持してきた日本の国家外交は、中世後期に大きく変質する。「国」意識を成熟させた戦国大名による「地域国家」外交権の行使により、特に16世紀半ば以降に、脱中華志向の外交（脱「日本国王」外交）へと性質転化していったのである。



鹿毛敏夫
国際文化学部教授

保育園で働く看護師の語りから考える多文化共生

保育園看護師のライフストーリーから、外国人住民像（保育園の外国人住民から地域社会を生きる住民へ）、対応（職業観に基づく対応に一個人としての思いに基づいた個人レベルの対応を加えていく）への意識変化、多文化共生観の形成（個人レベルでなく制度やシステムに落とし込んだコミュニティの在り方へ）を考察する。



梶原彩子
国際文化学部講師